



土浦協同病院



Recruiting Guide Book

総合病院 土浦協同病院
Tsuchiura Kyodo General Hospital



働き甲斐のある職場を目指して

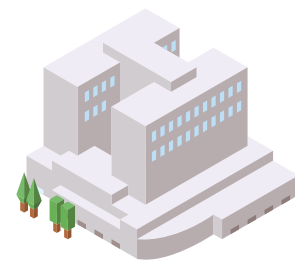
土浦協同病院のパンフレットをご覧くださいありがとうございます。
当院は茨城県最大規模の地域医療拠点病院で、最新鋭の設備を有した総合病院です。様々な病気を抱えた患者さんが県内全域から、最高の治療を求めて当院に來られます。我々はその御期待に応えられるよう、常に準備し、研鑽を積んで努力しています。医師はもちろんスタッフには経験豊富で優秀な指導者が多く在籍していますので、学びながら、ともに成長していこうという環境が整っています。これからはただ治す医療だけでなく、支える医療を目指していかなければなりません。そのためには看護師、薬剤師、リハビリ、社会福祉士、管理栄養士など多職種がチームとなってひとりの患者さんに携わり、その人にとって最善の生活、人生を過ごせるように手助けしていくことが大切になります。
あなたもこのチームの輪に加わって患者さんの幸せづくりに参加しませんか？



総合病院土浦協同病院
病院長 広岡 一信

高度急性期医療を中心に 地域医療を支えています

土浦協同病院は「いつでも誰でも安心して受けられる高度医療と地域医療」をスローガンに掲げ、地域の医療に貢献しています。幅広い分野にわたる優秀なスタッフと、最新の施設・設備を備えた最高の環境があなたを待っています。ぜひ、私たちと共に働いてみませんか？



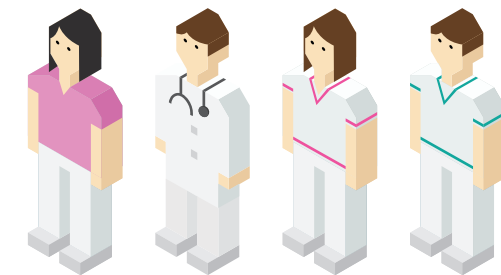
地域と病院を結ぶ

メディカル・エコタウン

当院は地域医療の拠点病院として、医療と地域社会が融合したメディカル・エコタウン構想を掲げています。また「地域医療支援病院」にも指定され、持続可能な地域医療を構築するための役割を果たしています。

全ての職員で病気に立ち向かう

チーム医療



医師、看護師、スペシャリスト達が職種の垣根を越えて、それぞれの専門性を活かしたチーム医療を実践しています。医療の進歩に伴い、各職種の専門性が高まっています。当院においても多くの認定資格を持った職員が活躍しています。
また、当院で働いている多くの医師が共通してあげる特徴に「診療科の垣根がない」ということがあります。カンファレンスは複数の診療科が参加し、それぞれの視点から治療方針の検討や意見交換を行います。院内コンサルテーションにも積極的です。

当院が担う高度医療

3つのセンター機能

救命救急センター

当院の使命でもある高次救命救急医療を 24 時間 365 日変わることなく提供し続けています。敷地内に大型ヘリポートを設置し、ドクターカーも配備しています。救急車の受け入れ件数は茨城県において常にトップクラスです。

総合周産期母子医療センター

産婦人科と新生児科が中心となって、主に県南・鹿行地域のハイリスク妊娠、ハイリスク新生児を受け入れています。多くの診療科を抱える当院では、妊婦や新生児の様々な合併症に対する専門的な診療も可能です。

茨城県地域がんセンター

高齢化に伴う合併症の増加や治療の選択肢が増えるなか、がん治療には総合力が求められています。当院では診断、治療、予防、緩和ケアまで幅広くカバーした高度で安心・安全ながん治療の提供に努めています。

臨床研修医

明日の医療を担う

初期臨床研修は、全人的な医療を身につけ、将来の専攻分野を考えるために大切な期間です。総合病院である当院は診療科が多く、様々な領域の研修に対応しています。



多くの指導医のもとで豊富な経験を積み、
患者・地域のために働く喜びが研修生活を支えてくれます

当院の臨床研修では救命救急医療に重点を置いています。軽症から重症まで、慢性疾患の増悪した症例もいれば診断が何もついていない症例も受診してきます。救急医療へ対応することで医師に必要な様々な技術や素養が身につきます。研修当初は大変に感じるかと思いますが、その経験が医師としての貴重な土台となるはずです。

そして、当院には多くの優秀な指導医とともに、自らの仕事に誇りを持つ優秀なコ・メディカルスタッフがたくさんいます。現代の医療で医師一人の力だけで完結することは殆どありません。当院での研修を通じてチームとして働くことの大切さを実感できると思います。また、当院に対する地域の人々の期待感は、大病院が複数存在する都会の中の一病院とは比較できないほど大きなものであります。たとえ研修医であっても、地域の人々に誠意を持って寄り添い期待以上の医療を提供する責務があります。それは大変なことではありますが、成し遂げた場合には大きな喜びを感じることでしょう。研修医の皆さんと一緒に医師として成長し続けることが私たちの喜びでもあります。



臨床研修委員長
副院長兼小児科部長
渡辺 章充



研修理念

医療は、ヒトがヒトを診断し、場合によっては侵襲を与えつつ治療する行為である。従って、患者との信頼関係構築と、常に安心・安全な医療の提供をめざすことが重要である。そのための基本的な能力を2年間の初期臨床研修期間で醸成する。

基本方針

1. 科学的でエビデンスに基づく医療の提供
2. 幅広いプライマリ・ケア診療能力
3. 医療の原点である救急医療に対応できる能力
4. 確かな医療技術の習得
5. 患者本位の思考・行動姿勢
6. 総合プロブレム方式で、全人的に対応
7. チーム医療の一員として多職種・多領域と連携できる能力
8. 医療安全を重視する姿勢
9. 未解決の問題に取り組む学術的姿勢
10. 医師としての人格の涵養

臨床研修の特徴

【救命救急医療に重点】

初期救急から高次救急まで、救急医療に対するマインドを持っている人を求める。

【意欲の高いコ・メディカルとの連携】

高い能力を持った意欲的なコ・メディカルとの、様々な臨床場面での協力体制が整っている。積極的な関わりの中で医師としての知識や技術の幅を広げることができる。

【担当医として手術にも参加】

外科系では担当医として手術に参加し、術前・術後の管理も行う。また、患者数が多く実践的に手技を経験できる機会が多いことも特徴である。

【ハイレベルな教育環境】

臨床研修指導医を約80名配置。研修医カンファレンス、指導医レクチャー、スキルラボ、図書館など教育環境が充実している。

【充実した診療・研修環境】

2016年3月の病院移転により、診療と研修環境がさらに充実している。

初期研修

EPOC2 臨床教育評価システムに準拠し、基本的な臨床能力を幅広く身につけます。2 年間で最長 48 週にわたる長期の自由選択を設ける自由度の高さが特徴です。具体的なプログラムは研修医の希望や将来のキャリアを考慮し、自由裁量をなるべく取り入れ、検討・相談のうえ決定します。初期研修修了後、当院での専門研修を含め様々な進路選択の相談に応じています。

当院の研修スケジュール例（24 ヶ月）

1 年次	1 クール	2 クール	3 クール	4 クール	5 クール	6 クール	7 クール	8 クール	9 クール	10 クール	11 クール	12 クール	13 クール
	内科						外科		救急部門		自由選択		
2 年次	1 クール	2 クール	3 クール	4 クール	5 クール	6 クール	7 クール	8 クール	9 クール	10 クール	11 クール	12 クール	13 クール
	小児科	産婦人科	精神科	地域医療	自由選択								

※救急部門については、自由選択の期間中に週 1 回の並行研修を当直にて 20 日以上行う。8 週のブロック研修期間中、4 週を上限として麻酔科研修を救急の研修期間とすることができる ※一般外来 4 週以上を含む。一般外来研修は内科（自由選択含む）・小児科・地域医療研修期間中に並行研修を実施する ※地域枠対応プログラムとして 1 年次に 1 年間、茨城県立中央病院、ひたちなか総合病院、日立総合病院のいずれかでたすきがけ研修が可能（選定あり） ※詳細は当院ホームページを確認

VOICE



臨床研修医 初期 /2 年目
小山 紗佑実 さん（筑波大学出身）

先進的な医療から一般的な疾患まで 多彩な症例が集まります

土浦協同病院は診療科も揃っており、地域医療の拠点として先進的な医療から一般的な疾患まで多彩な症例が集まります。救急外来の対応は初期研修医が積極的に行うため 2 年間で着実に力をつけることができます。また手技を行う機会にも恵まれており技術も身につきます。指導医の先生方には熱心に指導していただき、コ・メディカルの方々もいつも柔軟に対応してくださるので研修をされていてとても居心地がよく、初期研修を過ごす場所として魅力的な環境だと思います。

スタッフの方々の支えのもと、 数多くの症例から学びを得ています

土浦協同病院の魅力は、多職種の方々の支えのもとで多彩な症例を経験できることだと思います。まだ勤務数か月ですが、上級医やコ・メディカルの方々に相談しやすい環境が整っており、毎日新しい学びがあります。そして幅広い診療科のもと、症例数に恵まれ、その学びを生かす機会が多いことがモチベーションにも繋がっています。このような環境に感謝しながら、医師としての土台を築いていきたいと思っています。



臨床研修医 初期 /1 年目
江口 岳志 さん（東京医科歯科大学出身）

専門研修

平成 30 年度からスタートした新専門医制度における基本領域 5 つの専門研修プログラムを、基幹施設として用意しています。もちろん、それぞれが日本専門医機構および各領域学会に認定されたオリジナルプログラムとなっており、当院の特徴である幅広い、たくさんの症例を経験しながら専門医を目指します。基幹施設としてだけでなく、様々な施設のプログラム連携施設としても多くの専攻医が当院で日々研修を行っています。研修期間は 3 ～ 4 年間です。茨城県はもとより多くの県外施設とも連携を結んでおり、基幹となる当院を中心に地域医療から大学病院まで多岐に渡る経験ができます。

プログラムと連携施設群

診療科 (領域)	連携施設群 （順不同）	診療科 (領域)	連携施設群 （順不同）	診療科 (領域)	連携施設群 （順不同）
内科	東京医科歯科大学医学部附属病院	産婦人科	東京医科歯科大学医学部附属病院	小児科	茨城東病院
	筑波大学附属病院		JA とりで総合医療センター		はるたか会 あおぞら診療所
	株式会社日立製作所日立総合病院		田園都市レディースクリニック	整形外科	東京医科歯科大学医学部附属病院
	草加市立病院		高萩協同病院		がん研究会有明病院
	JA とりで総合医療センター		白十字総合病院		北水会記念病院
	株式会社日立製作所ひたちなか総合病院		筑波学園病院		JA とりで総合医療センター
	柏市立柏病院		小山記念病院		九段下病院
	秀和総合病院	外科	東京医科歯科大学医学部附属病院		日産厚生会玉川病院
	総合病院水戸協同病院		株式会社日立製作所ひたちなか総合病院		草加市立病院
	武蔵野赤十字病院		友愛記念病院		東京ベイ浦安市川医療センター
	横須賀共済病院		東京医科歯科大学医学部附属病院		新渡戸記念中野総合病院
	JCHO 東京山手メディカルセンター	小児科	筑波大学附属病院		同愛記念病院
	国立病院機構災害医療センター		茨城県立こども病院		練馬総合病院
	豊島病院		JA とりで総合医療センター		
	平塚共済病院		川口市立医療センター		
	横浜南共済病院		草加市立病院		
	横浜市立みなと赤十字病院		東京北医療センター		
	青梅市立総合病院		東京ベイ浦安市川医療センター		
	神栖済生会病院		なめがた地域医療センター		
	白十字総合病院		愛成会記念茨城福祉医療センター		

※上記以外の領域は、東京医科歯科大学附属病院や筑波大学附属病院等の連携施設となっています。詳細はお問い合わせください。

VOICE



外科専攻医
本多 正樹 さん（山梨大学出身）

指導医が見守るなかで多くの外科手術 を任せてもらえるところが魅力です

初期研修も当院で行い、そのまま外科専門研修に入りました。短期間で複数診療科をローテーションしていた初期研修に比べ、外科領域をじっくりと経験しながら、消化器外科専門医を目指しています。研修医時代に感じていた院内の風通しの良さや経験症例の多さは、専門研修でより感じることができています。幅広い専門領域の医師に気軽に相談できたり、指導医が見守るなかで多くの外科手術を任せてもらえるということが当院の大きな魅力だと思います。

看護師

患者さんのいちばん近くで――

最も身近な医療者として患者さんを見守り、自己治癒力と意思決定や日常生活を支援して「この病院を選んでよかった」と思っただけの看護の提供を心がけています。



あなたなりの「看護の楽しみ」を見つけてください



看護部長
宮本 佳代子

看護部では「全員で新人を育てる」というスタンスのもと、看護師一人ひとりの質の向上を目指し、キャリアアップできる体制を整えています。
部内には専門看護師、認定看護師、認定看護管理者の資格保持者が20名以上在籍し、専門分野の指導を行っています。その他にも、当院の重要な柱である救急医療・がん医療・小児医療・周産期医療の分野における専門的なプログラムも用意しています。
看護師は長く続けられる仕事です。また、長く続けてこそ見つけられる「看護の楽しみ」というものがあります。私自身も新人時代から当院で働いてきたなかで、たくさんの人と関わり、看護における「心」の大切さを実感してきました。特にがん看護、緩和ケアで得たものは大きく、患者さんたちから生きることの尊さを教えられました。看護は人間的にも大きく成長できる仕事です。皆さんも環境が許す限りぜひ長く続けてください。同じ資格を持つ仲間として看護部一同で支援します。

看護部の理念

人々の生命を守り、心身の健康と生活の質を高める看護を提供し、医療を受ける人々の信頼に応え、地域社会に貢献することを目指します。

看護部の教育理念

1. 看護部の理念に基づき、安全で質の高い看護サービスを提供できる看護職の育成を目指す
2. 個々の職員のニーズと目標を尊重し、専門職業人としての成長・発達ができるように支援する

看護部の特徴

【柔軟な教育体制】

プリセプターシップ制度や医師、スペシャリストとの連携教育も取り入れた柔軟な教育を行い、病院全体で新人を育てる体制を整えています。

【確実なレベルアップ】

段階に応じた研修プログラムを用意し、一歩ずつ着実にキャリアアップすることができます。看護管理者との面談により学習の評価が行われ、個々の課題の明確化と学習の動機付けにつながっています。

【ワークライフバランス支援】

職員が家庭や子育てと両立しながら安心して働けるよう、結婚休暇や産休、育休制度を用意。24時間保育の院内保育所「ひまわり」も設置しています。離職率の低さ（全国平均のおよそ半分）も、当院の働きやすさを示しています。

【充実の設備で磨く看護スキル】

最新のIT機器や設備を備え、図書室の充実も図っています。また、当院ではナースングスキル日本語版を導入しており、インターネット環境があればいつでも利用できます。ウェブ上で正しい看護手順や看護技術を学ぶことができます。

【地域や仲間とのつながり】

看護師会では、看護職員同士の親睦を深め、教養や生活の質の向上を図るために親睦会や福祉活動などを行っています。「まちの保健室」を毎月開催し、健康相談を通じて地域の方々とのつながりを深めています。

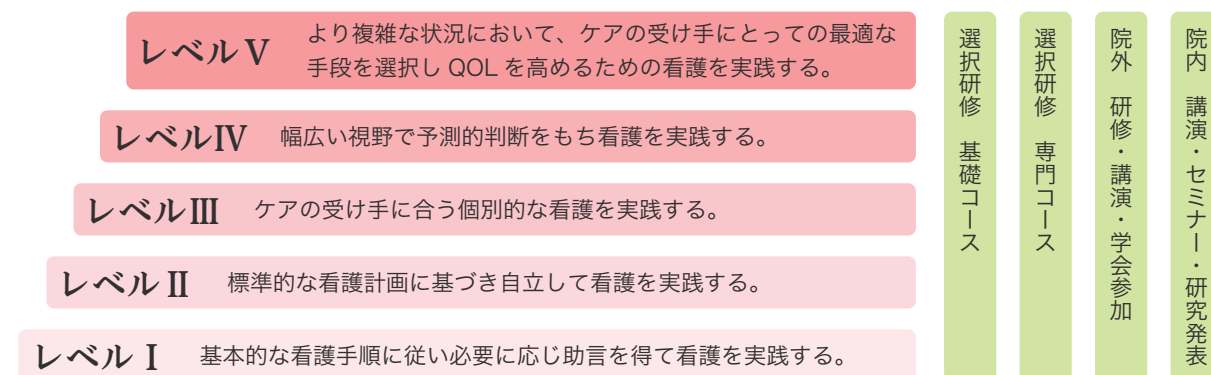


看護師教育プログラム

日本看護協会が提唱する「クリニカルラダー認証制度」を導入し、段階に応じた院内研修プログラムを組み、効率的な学習を行っています。様々な経験を通じて自らの進む道を定め、将来的には認定看護師や専門看護師、認定看護管理者などの資格取得をはじめ、大学院進学や実習指導者・看護教員など専門資格取得に積極的に取り組み、やる気のある看護職員を支援する環境も整えています。



クリニカルラダーシステム



プリセプターシップ



新人看護師1名に先輩看護師が1名つきます。マンツーマンで教育・指導、メンタルケアなどを行います。

リフレッシュ研修



年に3回、時間内研修として仲間と一緒に語り合うことで、リフレッシュできる機会を設けています。

院内留学



配属部署だけでは経験できない看護の基本的知識や技術の習得を目的に、配属部署以外の病棟で2週間の院内留学を行います。

トレーニングラボ



人形を使った救急実習や採血のトレーニングを行えます。臨床研修医と共同の教育設備で、医局と連携した教育を行っています。

レベルⅠ研修



薬剤の講義と演習、採血の講義と演習、リフレッシュ研修などで構成されています。薬剤の基礎知識と安全管理に重要な講義を受け、薬剤師のアドバイスを受けながら演習を行います。患者誤認防止のため、点滴や検査の前にiPhoneでバーコード認証します。また、採血の演習では安全な採血ができるように手技、感染予防、誤認防止の方法を学びます。採血モデルを使った演習も行います。

VOICE of the nurses



GCU 所属 保健師
足立 杏奈 さん（2019 年入職）

赤ちゃんの成長していく姿が励みになります

NICU・GCU は家族の始まるの場所でもあります。赤ちゃんの様子を両親に伝え、不安な気持ちに寄り添い、沐浴や授乳などの育児練習をそれぞれのペースに合わせて行っています。赤ちゃんの発するサインを読み取りながらのケアに難しさを感じますが、赤ちゃんの成長していく姿が励みになります。みなさんも実習や就職活動、国家試験を控えて大変かと思いますが、卒業後の自分をイメージして、夢に向かって頑張ってください。

頼もしい先輩に囲まれて 充実した日々を過ごしています

救急集中治療室で勤務しています。診療科、疾患問わず重症患者さんが入室しています。他職種との関わりも多く、チーム医療の大切さ、連携の大切さを実感できる病棟です。学ぶことがたくさんあり、大変な面もありますが、頼もしい先輩方に囲まれて充実した日々を過ごしています。ぜひ私たちと一緒に働きましょう。



EICU 所属 看護師
武蔵 尚樹 さん（2016 年入職）

周産期はもちろん、 幅広い知識を得ることができます

当院は総合周産期母子医療センターに指定され、ハイリスク等の症例を受け入れています。助産師として周産期の学びだけでなく、他の診療科と連携する機会も多く、幅広い知識を得ることができます。助産師は母と子の二人の命をお預かりさせていただき責任のある仕事です。その責任感を常に感じながら、先輩方の手厚い指導のもと、日々、自身の知識、技術の習得に励んでいます。



5B 所属 助産師
清永 真由 さん（2020 年入職）

03 _ SPECIALISTS

スペシャリスト

For the Team _____

それぞれの持つ専門性を活かしながら、多職種が連携し、患者さんにとって最善の医療を提供していくのが「チーム医療」です。



DEPARTMENT _____ of the specialists

当院のスペシャリストは薬剤部、放射線部、臨床検査部、栄養部、リハビリテーション部、臨床工学部、社会福祉部の7部門で構成されています。近年、医療の進歩はめざましく、スペシャリストの果たす役割はますます重要になっています。



薬剤部

地域の中核病院である当院では、さまざまな疾患を目にする機会が多く、患者さんが服用する薬全般についての知識を深めることができます。薬剤師としてスキルアップするには最高の環境となっています。入職後は3ヶ月間の新人教育カリキュラムを実施します。1年間は調剤業務に従事し、その後、病棟業務に関わっていきます。



放射線部

当院の放射線部は2015年に茨城県初の「医療被ばく低減施設」に認定。最小の被ばく線量で最高品位の画像提供を行っています。このような最先端の設備環境で最新の技術を習得し、放射線技師ができるモダリティのほとんどを経験できることは大きなメリットです。また、県内外の研修会や学会へ積極的に参加するなど、スキルアップのお手伝いもしています。



臨床検査部

さまざまな専門資格を持った専任スタッフを70人以上配置しています。設備面では、新築移転後に採血管準備システムの導入や検査室数の拡充を図り、患者さんへの対応をよりスムーズに行えるようになっています。チーム医療にも参加し、多くの経験を積める環境が整っています。症例数も多く、知識や技術を身につけるのに恵まれた環境となっています。



栄養部

安心・安全で美味しい食事の提供と、患者さんの立場に立った適切な栄養管理を理念とし、病院の給食管理をしています。患者さんとそのご家族への個別栄養指導も行っており、指導を通じてさまざまな疾患を学ぶことができます。また、NST（栄養サポートチーム）による回診・カンファレンスを行うなど、チーム医療にも積極的に参加しています。



リハビリテーション部

理学療法、作業療法、言語聴覚療法と3つの専門職があり、患者さんの身体活動、ADL、高次脳機能、嚥下機能などを回復させる治療を行っています。教育面では、各協会で定められた新人教育、認定、専門制度の取得を推奨し、各種学会や研修会への参加など、学習や経験の機会を設けています。チーム医療の一員として積極的に治療に関わることができます。



臨床工学部

高度先端医療を推進する当院において、急性期医療に欠かせない専門技術者としてチーム医療に大きく貢献しています。病院移転後は、心血管カテーテル業務やペースメーカー / ICD 業務の拡大により、以前に増してスタッフ育成に注力しています。学会や研修会などへの参加や、認定資格の取得なども推奨しています。幅広い分野で専門的な知識や技術を身につけることができます。



社会福祉部

救急医療を病院理念のひとつとしている当院では、救急医療の社会的課題やその支援に興味がある方、さまざまな不安や心配を抱える患者さんとお家族の力になりたいという方を求めています。教育については、指導担当者がついて業務指導を行うほか、部門全体でのサポートも充実しています。救急以外にも幅広い対応が求められるなかで、知識や技能を高めることができます。

附属施設

24 時間 365 日対応

院内保育所ひまわり

職種に関係なく、全職員を対象に 24 時間 365 日体制で保育を行っています。茨城県産のスギ・ヒノキ材と国内の木材をふんだんに利用した園舎は、温もりとゆとりに溢れた空間となっています。病院職員の勤務の厳しさは増大していますが、地域住民の健康を守るために当院の職員は献身的に努力しています。そんななか、大切なお子様をお預かりし、養育・教育を支援する大規模な病院附属保育所は地域、及び医療界でも高い評価を得ています（0 歳児から 5 歳児まで合計 200 名が入所定員）。



利用者の声

- ・夜間保育にも対応しており、夜勤時にも安心してお願いできる環境があることが心強いです（看護師）。
- ・広くのびのびとした園舎と、親身に子どもと関わってくださる先生方がいます。とてもアットホームな雰囲気の保育所です（看護師）。

職員宿舎

病院の隣接地にあるため通勤の負担もなく、業務に集中できる環境を整備しています。安心して快適な生活を送るための様々な設備やセキュリティが備えられています。

間取り：洋 8 帖、1K

設備：エアコン、TV インターホン、浴室乾燥機、BS 放送、Wi-Fi、バス・トイレ別、室内洗濯機置場、フローリング、システムキッチン IH クッキングヒーター装備、クローゼット

パブリックスペース：共用玄関オートロック、防犯カメラ、メールボックス、敷地内ゴミ置場

